

第十四回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会

自由題の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

喰積やどの御重にもまろきもの

神奈川県川崎市
堀口知子

京都府知事賞

潮まねきまねきし潮に呑まれけり

大阪府枚方市
讓尾三枝子

与謝野町長賞

秋めくや世話されるよりするが好き

山口県山口市
岡村恵美子

与謝野町議会議長賞

蛇穴を出でいちばんにゆくところ

神奈川県川崎市
堀口知子

与謝野町教育委員会教育長賞

卒業期一人一枚磨く窓

大阪府八尾市
乾祐子

与謝野町文化協会会長賞

何ごとか波つぶやけり秋の浜

三重県龜山市
藤原紅

塩見恵介賞

夏雀蛇口の上を取り合へり

愛知県碧南市
井浪京子

山田佳乃賞

裸子のどの子が我が子暁の月

東京都大田区
真隅素子

選評一覧

選者 塩見恵介 山田佳乃

与謝野町俳句大賞

喰積やどの御重にもまろきもの

【塩見】

滋味に溢れた言祝ぎの新年詠。下五の「まろきもの」とい
うおおぶりな表現から受ける、新春のおおらかな印象。重
ね置かれた重箱のそれぞれに円満な家庭の雰囲気を漂わ
せる丸い食べ物。慈姑、伊達巻、昆布〆、海老、それぞれ
の丸さが今年の平穏と幸福を予祝してくれているよう。

感謝の思いでいただこうと慎ましやかな気分に。

【山田】 お正月の喰積には縁起のよいものを重箱に美しく詰めて
楽しむ。それぞれ駿辯ぎの謂れがあるけれど、円く角のと
れたものがどの御重にも入れてある。改めてみると発見
があり、和に繋がる日本的心も感じられる。

京都府知事賞

潮まねきまねきし潮に呑まれけり

大阪府枚方市 讓尾三枝子

【塩見】

大きな片爪を振る姿に潮を招くイメージから名づけられ
た潮まねき。名は体を表すという。名づけられた名を己の
宿業と読み取るのは深読みだろうか。招いた潮に呑まれ
流されていく潮まねきに哀れを感じるが、それとも、呑ま
れ流されながら本望の喜びを感じるか。後者の生きざま
に少し心惹かれる読者の一人である。

【山田】 大きな蟹を動かす様が潮を招いているように見えるの
が、満潮時に海面下になるくらいの巣穴が高さにある。自
分が呼んだものに呑まれてしまふという視点に諧謔味が
あり、人間臭さも感じさせて面白い。

与謝野町長賞

秋めくや世話されるよりするが好き

山口県山口市 岡村恵美子

【塩見】

爽やかな季節の気分が、信条や行動をポジティブに向ける。
「意味」としてどちらと、平易でわかりやすいが、俳句
のリズムに乗つたとき、それはとても快い「音楽」となつ
て心に響く。上下の力行、中下のサ行のリフレーンが軽や
かで爽やかに響き渡る一句。自身が秋風に変身する気分
に誘われた。

【山田】 世話好きの人と世話されたい人がいるのでうまく世の中
廻っているのだと思う。作者は世話されるよりするほう
が好きなのだという。もしかしたら世話されて居心地の
悪さを感じておられたのかもしれない。

与謝野町議会議長賞

蛇穴を出でいちばんにゆくところ

神奈川県川崎市 堀口知子

【塩見】 一読、ユーモアに頬が緩む一句。春の陽気に誘われて、冬
眠から目覚めた蛇。さて、穴を出でどこに行こうか。くつ
ろぎの気分に誘われる一句。さほど緊急性のないところ
がいい。懐かしき場で久闊を叙するもよし、あこがれの新
天地に赴くもよし。ダメと分かっていながらの悪所通い
もよし。読者の生きざまを反映した、多くの素敵なお題賞を

産みそうな、楽しい一句。

【山田】 ずっと穴に籠っていたので、穴をでたら早速どこか行きた
いところがあつたのかかもしれない。ユーモラスな蛇の姿
が見えて来る。さて何処に行くのだろうと想像する楽し
みがある句。

与謝野町教育委員会教育長賞

卒業期一人一枚磨く窓

大阪府八尾市 乾 祐子

【塩見】 中下の日常的な作業が上五の季語と取り合わされた時、心
情の乗った美しい所作となる。卒業を迎えた卒業生たち
が、自分たちの学び舎を美しくしている作業は、すなわち
自身の心の成長を磨き輝かせた一日一日を振り返り愛お
しむようである。一人一人にかけがえのない一枚の窓。そ
れはそれが外界を素直に映し取り込む心のようであ
る。

【山田】 卒業の時期に教室の窓を皆がそれぞれ一枚ずつ磨いてい
く。一人ひとりの教室への想いが感じられて、青春の頃を
ふと思い出させてくれるような句。

与謝野町文化協会会长賞

何ごとか波つぶやけり秋の浜

三重県龜山市 藤原 紅

【塩見】 人影の途絶えた秋の浜にひときわ耳に残る波音。それを擬
人化し「つぶや」きとしてどちらとこうに妙味がある。
内容は「何ごとか」認識されないほどのつぶやき。そのつ
ぶやきに今しばらく耳を澄まして傾ける時間は、詩情あ
ふれる世界。

【山田】 人気なく静かな秋の浜。波が寄せて波音が胸底に響いてい
くよう。何か問い合わせてくるような気配があつたのだろう。
何ごとかわからないけれど、いつも自然は自分たちに
話しかけているような気がする。

塩見恵介賞

夏雀蛇口の上を取り合へり

愛知県碧南市 井浪京子

【塩見】 現代の生活の中で垣間見えた、鳥獣戯画的な要素も含む、
小動物の愛らしい姿を活写した一句。一読、鷺村が現代に
生きていたら、このような世界を俳句に描きそそうと感じ
させられた。小動物の写生句であるが、酷暑の現代にあつ
て、雀に人々の心情を仮託している雰囲気も漂つ。

山田佳乃賞

裸子のどの子が我が子雇の月

東京都大田区 真隅素子

【山田】 裸になつて公園や水辺などで遊んでいる子供たち。夏の暑
い時期、子供はすぐに裸になりたがる。何人かいるけれど服を脱いでしまえば我が
子がどれかよくわからなくなるほど似ているのである。
そんな作者の視点が秀逸。

自由題の部 入選一覧

塩見恵介選

賞候補

青空を見ているだけのハンモック 福井県高浜町 神谷美穂

大好きな兄に寄り添ふ浮輪の子 京都府福知山市 水巻令子

片蔭をゆく心地なる余生かな 静岡県焼津市 長谷川尚美

夕端居ひとりがいいといふは嘘 兵庫県たつの市 竹内澄子

おもういこと何もあらへん鱗の皮 京都府八幡市 大山文子

適塾の窓放たれし涼しさよ 東京都三鷹市 櫻庭 寛

ライオンの縞馬食む地虹かかる 兵庫県西宮市 とりとりの空

新緑やカヌーで進む水没林 大阪府島本町 池田壽夫

西瓜切る種のソファミレ待つ子ララ 京都府舞鶴市 大瀧和子

佳 作

ほうたるの光りさまよう薫屋かな 神奈川県横浜市 富沢昌晴

掃除夫を労ひ薔薇を誉めてをり 三重県鈴鹿市 浜西 修

そつと閉づ日傘にふと日の匂ひ 香川県高松市 岡田貞幹

あるだけの風鈴の鳴る海の駅 大阪府高槻市 瀬野 浩

人待ちの夕立のあとはんばあがあ 神奈川県二宮町 野谷真治

測量士の見詰める先に揚羽蝶 北海道音更町 德地好子

機町に育ち遠くへ燕の子 京都府与謝野町 尾藤静子

フルーツを絶やさず桃も仏壇に 東京都国分寺市 守屋明俊

金槌のふたり渡れぬ天の川 愛知県名古屋市 前野砥水

生きること祈りにも似て未草 岡山県倉敷市 高木起未子

人生の切り取り線や飛花落花 京都府福知山市 牧田美代子

まくはうりテレビの上にのせもして 京都府舞鶴市 南ゆふこ

二階より地上に流す冷そくめん 奈良県奈良市 米田幸子

鰻筒漁する父と由良の瀬と 京都府福知山市 辻本ゆき

二重跳び見てたゞ見てよ！赤いビーサン 京都府与謝野町 泉 鈴也

娘に肩を借りて潜れる茅の輪かな 京都府舞鶴市 谷田明日香

わざわざ吾踏み越え走る子猫かな 兵庫県三田市 華気 聖

蹄鉄のゆるりと沈む春の土 京都府京都市 佐野瑞季

ぶらさがる葡萄はどれもぱんぱん 京都府向日市 米澤茂る

山田佳乃選

賞候補

生きたくも死にたくもなし敬老日 大阪府高槻市 濑野 浩

並び立つ舟屋に迫る葉月潮 三重県伊勢市 山本孝子

梅雨寒や靴音ひそめ美術館 徳島県阿波市 大塚和子

機音を子守唄とし花の昼 京都府与謝野町 糸井範子

山頂にぼつんとポスト鳥渡る 大阪府羽曳野市 土井常寛

老いるにも一踏ん張りや雲の峰 三重県尾鷲市 中村東太

ようこびのみんみん蝉を捕つた夏 兵庫県豊岡市 野垣高城

菜殻火の後に残りし銀の灰 福岡県小郡市 松井馬山

音消えて貼絵のやうな日の盛り 京都府舞鶴市 小原芙美子

佳 作

残雪や都に近き鬼の国 島根県松江市 寺津豪佐

上がる声下りて来る声半仙戯 岡山県岡山市 伴 明子

年上に見ゆる手品師敬老日 兵庫県神戸市 平尾美智男

紅葉を映して湖の深さ増す 和歌山県和歌山市 中村本治

奉納のお祭り太鼓漁師町 愛知県長久手市 高間清彦

みくまりの風定まらず竹の秋 広島県安芸郡坂町 吉原文音

早田に向かひたる背ナ祈ること 京都府長岡京市 南部小花

寒鯉の船や喫水深き伊根 滋賀県野洲市 吉田節夫

野馬追の神旗を咥へ女武者 愛知県豊明市 山田光司

雨粒のあひだをゆるる半仙戯 東京都世田谷区 大瀬俄風

通り土間のれんの奥の秋暑し 京都府与謝野町 山崎温子

三月の駅ふるさとを捨てし駅 福岡県福岡市 角野良生

子に託す古きアルバム終戦忌 京都府福知山市 大林令呼

幸福でふ駅舎のこれり草の花 東京都品川区 吉村恵子

打水や築地続きに風通る 京都府舞鶴市 坂井恭子

船旅は渋滞知らず雲の峰 東京都品川区 本多遊子

紙魚の痕定価二円の文庫本 京都府与謝野町 高岡茂代

じやんけんで決める行き先ねこじやらし 兵庫県神戸市 野口郁子

訪ね来るみな良き人や盆の月 大阪府大阪市 上田圭子